

3. 11から4年～ 2011年とは何だったのか（1）

〇悔しくて、悔しくて・・・

震災、原発事故から4年が経とうとしています。4年の歳月は、事件のことを少しは相対化して考えられるようになってきたとはいえ、いまだトラウマのように重苦しく胸に沈むのは何とも如何せん。

あの時こうしていれば子どもたちの被ばくを少なくできたかもしれない・・・、15日なぜあの時に一斉に組合員に電話して「外に出ないで！屋内退避していて！」と無理矢理でも周知できなかつたのか・・・。もっとできることがあつたのではないかと・・・。

悔しくて、悔しくて……。いまだにそれが消えない。福島県山木屋グリーン牧場、4月2日。毎日外でのびのび暮らしていた牛たちが牛舎に閉じ込められ、もうダメだと言わんばかりに大きな目に涙をためて、やがて殺処分される運命を知るかのようにこちらを見る。何と話しかけたらよいのか・・・。

いちど刻まれた絶望感、失意は今も胸に沈潜しています。そしてふるさとを追われていまだ仮設住宅にいる人たちのことを思うと・・・。

宮城のお米の生産者、黒澤さんから「しっかりしろ！原発・放射能問題だけではない。もっと様々な問題が私たちの食を侵食しているではないか。」

津波ですべてを失った石巻の高橋さんはしっかり立ち上がっているじゃないか。

本当にその通りなのです。その通りなのですが、許して下さい。いまだ精神的に乗り越えられないのが正直なところ。もう少し時間を下さい。

若い職員さんが3月2回の商品案内の表紙に書くようには、客観的に書くことができない状況に戸惑いながら、もう一度4年前を振り返り、今だからお話しできることも含めて、何回かに分けて、4年後の今の置かれた状況を振り返ることとします。

〇これで終わった

3月11日福島県越前市で翌日からの全国有機農業の集いを準備中に大きな横揺れで東日本大震災に遭う。石岡の有機農業者の魚住さんと翌朝4時の始発電車で茨城に戻る事となる。大垣からはじめて運転再開した東京行きの新幹線に乗り東京駅へ。駅で夜を明かした人々がごったがえして動けない。東京駅で組合員に出会う。1時間ほどしてやはり初めて運転再開した常磐線に飛び乗り（TXは不通）、

松戸までたどり着き、松戸有機の会の方が用意して下さった自動車を借りてようよう利根川を渡る車のラジオで福島第一原発の爆発を知ることとなる。生協にたどり着いたのは12日夕方18時だった。

生協の事務所は一部天井と壁が落ちているものの、すでに散乱した本や書類は方付けられており、職員さんたちの素早い働きがうかがわれた。石岡の魚住宅はまだ停電で、崖崩れあり余震が続くので車中で寝泊まりしているとのこと。

幹部を招集し、「生協震災対策本部」を発足。新幹線の中で書き留めた原発事故対応を含む「災害対策6項目メモ」を指示。組合員の状況・被害の確認、生産者の状況、特に東北の生産者の安否・生存確認、月曜からの供給は物流寸断で納品不能の商品を除き「予定通りの供給」を遂行することを皆で確認。日赤から要請のあつた県内被災地への物資輸送を担うトラックを準備。店舗は停電だが災害時方針にもとづき、住民へ食料を放出し、休まず営業を続けること。

福島第一原発が先にやられた・・・。震源に近い女川原発の方は本当に大丈夫なのか？。福島第二は、東海第二は・・・。対策本部会議を終えて原発の状況把握に入る。福島第一1号炉圧力容器の正確な圧力データがつかめない・・・。夜の原子力安全委員会の記者会見。一瞬の言葉「炉心溶融が発生したと思われる」。

とうとう起きてしまった。ああこれで終わりだ。これまで大切にしてきたものがすべて終わりだ。

炉心溶融と言ってしまった監理官は即日更迭。政府が正式に炉心溶融を認めるのは何と3ヶ月後だった。

〇この日本で、本当に起きてしまった

13日、日曜日も職員は全員出勤。幹部を招集し、矢継ぎ早に指示する。茫然としながらも機械的に頭と身体が動いてゆくちぐはぐさと切なさ。

「原発周辺のモニタリングポストの10分刻みのデータを監視し生協のサーバーへ記録しなさい」「福島周辺のモニタリングポスト全滅のようでも出てこない」「東海原発周辺は？」「一部ダウンしているがデータがアップされている・・・」

「事務所の窓はすべて閉めてガムテープで目張りせよ」「空調は停止のこと」

「組合員は避難がはじまるだろうが、供給職員は

組合員が残っている以上は、最後まで食料供給は全うすること」「小さい子どものいる若い職員から順次避難させる」「総務は製薬会社に片端から電話して安定ヨウ素剤を調達しなさい。N95のマスクをすぐ手配すること」「ヨウ素剤はすべて断られました」「船橋のリアスさんをお願いしてとろろ昆布とおしゃぶり昆布をすべて持ってきてもらいなさい。プルームの通過が予想されるので、明日から供給に出る前に食べさせてから配達に出させること。配達中雨が降ってきたら供給は中断して車内に待避すること。供給から帰ったら頭から衣類までよくはたいてから事務所に入ること」「音声一斉電話配信で組合員には予定通りの供給を連絡すること」

〇石油コンビナート火災・ドライアイス・遺体

「供給に使うドライアイスが入ってこない」「千葉のコスモ石油のタンクが火災で、隣接する日本液化炭酸のドライアイス工場も停止」「関西から調達しなさい」「東北の津波で亡くなられた方の遺体を保管するために関西のドライアイスもみんな東北に行ってしまう」「ドライアイスは少しずつ使い、在宅の場合はその場で回収して使い回すこと」

〇生協の撤退・解散の内部確認

13日夜の生協トップ会議。「福島第一原発が炉心溶融となった以上、関東全域、ここ茨城・千葉も避難区域に入る。すでに組合員も避難がはじまっているが、いずれ組合員がいなくなる。残留している組合員が100人になったら生協も撤収し解散を宣言する。1年後くらいになるだろう。その間に職員は若い順に避難させ給与はこの1年は保証する。解散が決まった時点で退職金を支払うこととする。組合員の出資金はこれまで内部留保してきた資金で返せる。避難した組合員の避難先・連絡先は必ず聞き、連絡がとれるようにしておくこと」

4年後の今日、一転してこの資金で新しい本部・配送センターを建てることになるとは…。確かに震災後の本部は、人が歩くだけでゆさゆさ揺れる建物になっていたが、こうなるとは予想だにしていなかった。

〇14日、福島原発「炉心溶融」を伝える

福島第一原発の状況の情報を整理し、14日から配布する「ニュースレター緊急速報（第1報）」を



2011.3.14 発 震災緊急速報（第1報）

書き、13日夜半印刷に入る。東北生産者の安否はまったく不通・不明。ニュースの3ページを割いて福島原発事故の状況を説明。表題は「福島原発が炉心溶融」。

14日（月）。プルーム通過に備えて組合員向けニュース緊急号外を作成。「子どもを親戚等に預けられない場合は、放射性プルーム通過に備えて屋内に。どうしても外出しなければならぬ場合は濡れタオルを口に。放射性ヨウ素吸入に備えてわかめの味噌汁など海藻類の摂取を。配達の職員はガスマスク様のマスクをして配達するので驚かなで頂きたい。乳幼児がいる場合は配達職員からとろろ昆布、おしゃぶり昆布の提供を」

このニュースは何と16日から配布となった。1回目15日のプルーム通過に間に合わなかった。あとの祭。なぜ組合員に音声電話配信で一斉連絡をしなかったのか。今だに悔やまれる。

今でこそ笑い話ですが、当時の生協内の会話に「予測シミュレーション・スピードⅠが機能していないなら、Ⅱがあるはずだ。探せ！」(SPEEDⅠをスピードⅠと読めずに、スピードⅠと誤解していた)。

政府が関東全域・東北を含めた広範囲に屋内退避勧告を出していさえすれば被ばくも減らせたろうに…。政府がSPEEDⅠを公表したのは何と23日だった。（文責 副理事長大石）

第40回 脱原発と暮らし見直し委員会（報告）

2015年2月2日（月）柏市中央公民館3階会議室で10時～13時16人参加。初の千葉県での開催。柏市内から初参加メンバーがありました。

前半は食品等の放射性物質測定値収集や今後の計画などについて、後半は「知る見るリーフ」の内容について話し合いました。

1 チーム活動開始！

少人数で機動的に活動していくため、5つのチームを作りました。各チーム3～5人の委員で構成されています。それぞれの活動は、ニュースレターでお知らせします。

- ① DVD 貸出：貸出人数の集計や感想のまとめ
- ② アンケート：今月中に組合員にお願いするアンケートの集計
- ③ 知る見るリーフ：関東ネットと共に作成する放射性物質に関する小冊子
- ④ 土壌の測定結果比較：各地の土の汚染状況を比較検討
- ⑤ 児玉先生の著作：講演会記録や著作物など印刷や製本を検討

2 知る見るリーフづくり

「放射能から子どもを守ろう関東ネット」からの意見も入れて試案ができてきました。今回も、身近な放射能の危険性と対策についてお知らせするリーフレットの内容について、前回に引き続き検討しました。3月半ばの印刷を目標にしています。

3 午後から「児玉先生講演」DVD上映会

午後2時～4時には、同じく柏市中央公民館の4階会議室2で、昨年1月に行われた「児玉順一先生講演会」のDVD上映会を行いました。講演会に参加できなかった組合員や当日受付担当で講演が聞けなかった委員他14人が参加しました。A LETTER FROM JAPAN を読んでいても、新しい発見があります。ぜひ小さな上映会で活用してください。

★次回の委員会は3/2(月)10時～13時。場所は未定です。

原発事故から4年

脱原発暮らし見直し委員会より「アンケート」協力をお願い

原発事故から4年、組合員による脱原発暮らし見直し委員会が発足して3年余がたちました。チェルノブイリの健康影響の文献の翻訳活動や、情報を集めて学び合ったり、ミニパンフレットを作成して情報を発信したり、反原発の企画に参加したり、また生協も組織をあげて取り組んでいる東海第2原発を止める裁判を傍聴したり、できる活動をして40回を重ねました。

原発事故から4年を経て、今回は組合員のみならず皆様からのご意見やご希望をお聞きして、現在どのような情報共有が必要か、さらに原発にかぎらず広く問題意識を高め、暮らし方を見直してゆく機会をつくりたいと思います。

つきましては、今週同封されているアンケートにご協力頂きますよう、よろしくお願いいたします。

【催し・企画案内】

○暮らしを取り戻そう理事会チーム主催

『時短』『節約』の悩み、一緒に解決しませんか！

座談会であなたの悩み、ズバツと解決！！

2月14日（火）10:15～12:15

取手ゆうあいプラザ講義室（取手市白山5-1-1）

○全国有機農業・環境・文化の集い2015in 東京

「子どもに健康な土と食べものを」

3月7日（土）～8日（日） 國學院大學

○2015 原発のない福島を 県民大集会

3月14日（土）11時～ 福島市あづま総合体育館

○脱原発ネットワーク茨城主催

中島哲演さん講演会

「若狭の原発、そして茨城の原発」

3月29日（日）13～15時 土浦モール 505